

就任

医療法人社団高邦会
高木病院あかぎ よしと
赤木 由人 病院長

1985年久留米大学医学部卒業。米テキサス大学MD アンダーソンがんセンター、久留米大学外科学講座主任教授などを経て、2026年から現職。国際医療福祉大学大学院教授兼任。

医療法人社団高邦会 高木病院
福岡県大川市酒見141-11
☎0944-87-0001(代表)
<https://takagi.kouhoukai.or.jp/>

◎生命の尊厳を守り、安全で質の高い医療を目指す

福岡県南部から佐賀県東部までの医療圏を担う高木病院は時代とともに役割を広げ、1910年の開設以来、地域住民の健康を見守り続けてきました。

現在は、急性期医療やリハビリテーション、在宅医療を提供する医療法人社団高邦会の中心となる病院(506床)です。その「生命の尊厳と平等を守る」「地域社会に貢献する」「人材育成を通じて医療界の発展に寄与する」という理念に基づき、安全で質の高い医療を目指します。

病院長就任に当たり、患者さんやその家族から「高木病院を受診して良かった」、職員に「ここで働いて良かった」と思われる環境を整備していきます。

当院がある大川市は、少子高齢化の進む地方の小都市。患者数の減少、高齢者の疾患や救急搬送の増加、介護医療への対応が重要となります。従って地域

の医療ニーズに 대응するため特定機能病院や近隣の開業医と連携し、当院の医療資源を効率的に活用し、健康と安心な暮らしを支える医療を実践したいと思っています。

同時に、医療DXを推進し業務効率の向上を図り、職員の負担軽減に取り組み、働きがいのある病院を目指します。非効率な作業などの構造的課題の解

で高齢化率37%、高齢者単

独世帯33%、出生数は10年連続で減り続け、2025年度が130人。今後も少子高齢化は続く予測です。

外来での医療費を疾病別にみると「循環器(特に高血圧)」「尿路疾患(特に慢性腎臓病)」「新生物(特に肺がん)」の順に高くなっています。当院にはすで

を新たにしています。

当院の救急医療部には救急科専門医が専従し、24年度は3161件の救急搬送を受け入れています。

ドクターカーによる病院前診療やICUでの集中治療手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、急性腹症や腹部外傷に対する緊急手術も行ってきました。

救急医療や人材育成で地域貢献

消に向けRPA(Robotic Process Automation)

を導入し、単純集計や解析作業はパソコンに任せるようにしました。今後はAIシステムにより退院サマリ、診療情報提供などの下書きを自動作成することも考えています。

◎複雑な病態に診療体制の充実で応える

大川市は人口約3万人

ターがあり、診療体制が整っています。

26年4月、市内の福田病院が高邦会グループに承継され、「大川リバーサイド病院」(113床)に移行しました。大川市で救急車を受け入れる医療機関

は高邦会のみで、かかりつけ医の数も減少しているため、2院が連携して救急体制を構築し、住民の期待に応えていきたいと決意

誤嚥性肺炎、尿路感染症です。高齢者にはさまざまな病態があるため領域横断的な治療が必須となりま

す。また、当院の患者さんは高齢者が主体で、複数の診療科を併診される方も多くおられ、入院されると臓器別や領域別の専門医

だけでなく、それ以外の視点で診療を行う医師も必要になりますが、47診療科を擁し専門医がそろった

院では対応が可能です。

◎総合力とマネジメント力のある医師を育成

当院は急性期から回復期、慢性期、在宅復帰までシームレスな医療を提供する民間病院ですので、住民のニーズに沿った形の病院機能が優先されます。

つまり、目の前にいる具合の悪い患者さんは「まず診る」というマインドを持った医師が求められます。専門医としての強みを残しつつ、総合診療の視点を身に付けた総合力とマネジメント力のある医師の育成に努めていきたいと考えています。

そして救急搬送される患者さん、ご紹介の患者さんを積極的に受け入れ、急性期治療を終えた後は速やかに地域包括ケア病床や療養病床へつなぎ、リハビリや在宅復帰支援をシームレスに提供するという意識を約1400人の職員全員と共有しながら診療に当たっています。